

在宅于一医療栄養管理研究会

第2回 実践報告・討論会

— 抄 録 集 —



日時：2007年12月16日（日）

会場：高齢者認知症研究・研修センター 2F ホール



在宅チーム医療栄養管理研究会 第2回 実践報告・討論会

プログラム

12:30～ 受付

13:00～13:10 開会の挨拶

13:10～14:10 ■基調講演

「在宅・福祉施設の管理栄養士に求められる臨床力」

講師 社会福祉法人緑風会 緑風荘病院健康推進部・栄養室主任
管理栄養士 西村 一弘 先生

14:10～14:20 (休憩)

14:20～16:20 ■実践報告・討論会

「多領域にみる栄養ケアの実践～その可能性と課題を探る～」

14:20～15:10 第一部 <実践報告>

- ◆演題1 「通所における栄養ケアによる低栄養リスク改善の効果」
- ◆演題2 「訪問栄養指導による家庭での低栄養改善の援助事例」
- ◆演題3 「広範囲消化管切除後在宅 TPN から経口食に移行できた一例」
- ◆演題4 「外来での摂食・嚥下リハビリにおける脱水の発見と対応」
- ◆演題5 「病院内における『栄養評価オーダーシート』の試みとその活用について」
- ◆演題6 「栄養ケア・マネジメントの能率的連携のための様式例」

15:10～15:20 (休憩)

15:20～16:20 第二部 <討論会>

座長：在宅サービスセンター愛全園所長／本会代表 佐藤 悦子

コメンテーター：緑風荘病院健康推進部・栄養室主任 西村 一弘 先生

16:20～16:30 閉会の挨拶・諸連絡

【基調講演】

在宅・福祉施設の管理栄養士に求められる臨床力

●講師： 社会福祉法人緑風会 緑風荘病院健康推進部・栄養室主任 西村 一弘 先生

最近、国民全体の健康志向にはじまり、病院・施設における高齢者の低栄養問題などが取沙汰され、栄養ケアが注目されるようになりました。しかし、給食管理を中心に業務を行ってきた栄養士にとって、人の体の中の栄養管理をすることはとても困難なことであり、栄養士教育のカリキュラムが改正されても全く不十分であり、ましてや旧型のカリキュラムで教育されてきた栄養士には、対応しきれないことも浮き彫りとなりました。

また、病院等の医療機関では、力量不足の栄養士の代わりに NST (Nutrition Support Team) が活動を始めている病院も増え、医療チームによる栄養管理が実現されてきましたが、在宅や福祉施設では、医師や看護師等の医療スタッフによる栄養介入は少なく、患者や利用者の栄養状態の管理は、栄養士に委ねられていますが、実施されている施設が少ないことも大きな問題となっています。その原因として、在宅や福祉施設の高齢者は何らかの疾患を有していることが多くても、栄養士にそのアセスメントやケアの経験が少ないため、適正な栄養管理が滞っていることがあげられています。今回の研究会では、臨床力を向上させるための方法を、皆様と一緒に考えていきたいと思っていますので、皆様からのご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

講師プロフィール

にしむら かずひろ
西村 一弘 1961.1.23 生まれ

昭和 57 年 二葉栄養専門学校卒業
社会福祉法人 緑風会 緑風荘病院栄養室入職
平成 15 年 東京家政学院大学非常勤講師、二葉栄養専門学校非常勤講師
平成 17 年 医療系専門学校西部学園栄養士科非常勤講師



《所属》

日本栄養士会全国病院栄養士協議会幹事、日本病態栄養学会理事、NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会理事、実践栄養指導勉強会代表世話人、日本糖尿病学会、日本糖尿病妊娠学会、日本老年医学会、日本臨床栄養協会、日本静脈経腸栄養学会、多摩 NST 研究会世話人、西東京 CDE 研究会世話人、他

《資格》

管理栄養士、病態栄養専門師、健康運動指導士、日本糖尿病療養指導士、西東京糖尿病療養指導士、NST コーディネーター、他

《著書》

「困ったときの糖尿病患者の看護」共著 医学書院 2001
「一看護・コメディカル・医療事務・介護スタッフのための一なぜ？どうして？ Vol.7」共著 MEDIC MEDIA 2005
「症例から学ぶ臨床栄養テキスト」共著 医歯薬出版 2006 他